

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年 4月 8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100330		
法人名	株式会社シーフォークリエイツ		
事業所名	グループホーム 山ぼうし		
所在地	広島市安佐北区白木町大字秋山字原890番1号 (電話) 082-828-7636		
自己評価作成日	令和6年3月4日	評価結果市町受理日	令和6年5月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100330-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年4月3日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

・当事業所が力を入れている点は、地域との交流を大切にしています。地域での清掃活動の参加や小学校・中学校・地域の集会所や銀行など認知症についての講義を行い、認知症の理解と協力に取り組んでいます。白木地区に限らず、講義の依頼があれば積極的に活動範囲を広げ圏域外での活動にも力を入れています。また、他の事業所とも連携を図り、情報交換を行うなどより良い施設を目指しています。職員が仕事を行う上でやりがいを持てるように職員の意見を尊重し可能な限り職員の意見に沿った業務流れにしています。また、勤務希望の制限は決めず可能な限り希望通りの勤務表を作成し、仕事しやすい環境に取り組んでいます。入居者の方には、山ぼうしに来て良かったと思えるように、季節に合わせた行事を行い、楽しんで頂けるように取り組んでいます。入居者や御家族の要望に答え、安心して過ごせるように職員一同取り組んでいます。入居者も職員も楽しい職場である事をアピールしたい点です。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員が利用者と一緒によくお茶や食事をする事で会話が弾み、利用者が意向を表出しやすい関係を築いている。意向を可能な限り料理レクや外出支援につなげており利用者本位の楽しみが充実した生活を支援している。 地域活動に積極的に参加し地域住民との交流を深め、講義の依頼があれば広範囲に出向き認知症への理解を広めている。 外出、外泊の実施、他法人のグループホームと合同行事を開催し施設外で利用者同士の交流の場を設けており外部との関わりを継続できるよう支援している。豪雨災害時は通行止めになって立ち往生していたドライバーや地域住民に施設開放し20名以上を緊急宿泊受け入れするなど、地域が求めることにすぐに対応できる力があり、その姿勢を日頃から備えている。
--

自己評価	外部評価	項 目（ 1階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送りの後に、山ぼうしの理念と認知症ケアの十か条の把握と、実践に繋げる為、職員皆で復唱し実施できるように努めている。	事業所理念と事業所独自の認知症ケアの十か条を、当番職員が読み上げた後復唱することで共有し毎日意識できるよう努めている。理念や認知症ケアの十か条から逸れた対応をしていれば、お互いに指摘しあえる関係を築いて実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域での清掃活動に参加させて頂き、地域の一員として活動を行っている。散歩に行かれる際には、ご近所さんとの挨拶を行い地域との交流を大切にしている。	自治会に入会し掃除活動に参加し交流している。定期的に地域住民から花ブランター、近所のパン屋から差し入れなどがあり利用者が楽しみにしている。登下校中の小学生が手を振れば嬉しくて手を振り返した気持ちを後日小学校の講義中に伝えるなど、その時の利用者の気持ちを地域住民に届けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターからの依頼を受け、小学校・中学校・集会所・銀行など認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に対する偏見を持たず理解をして頂けるように活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヵ月に1回運営推進会議を開催し、施設の報告を行い参加者から、意見を頂き改善と向上に努めている。	2ヵ月に1回運営推進会議を開催し事業所から生活状況など報告をし参加者の意見を求めサービスに取り入れている。独居生活をしていた利用者のペット問題など、今後も起こり得る地域課題を地域住民や地域包括支援センターと共有するなど運営推進会議を課題共有の場としても活用している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	生活保護の入居者もいますので、生活課と密に連携を取り、情報交換とサービスの向上に取り組んでいる。	広島市、地域包括支援センターから研修依頼があれば積極的に出向き広範囲で認知症について理解を広める活動をしている。利用者が散歩しやすいように、事業所横河川道の砂利道整備もケアサービスに必要な環境として広島市に要望を出している。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化検討委員会で2ヵ月に1回会議と職員には事例をもとに考えて頂き報告書を提出して頂く事で、個人の見解を知り、身体拘束をしてはいけない！意味を理解して頂く為に取り組んでいる。	身体拘束適正化検討委員会を2ヵ月に1回開催し、事例を用いて研修をしている。研修後は報告書を提出し理解を深めている。生活支援の中で身体拘束に当たる行為なのではと考えられる項目については職員会議時に意見交換をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会で2ヵ月に1回会議と職員には事例をもとに考えて頂き報告書を提出して頂く事で、個人の見解を知り虐待防止に努めている。また、フロア会議でも虐待防止について事例を伝え個人の意見を聞き虐待防止について職員間で共有できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を行い、成年後見人制度について、後見人の役割と重要性を理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時・解約時・変更時に家族と話し、家族からの疑問に関して対応する事としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や月に1回の近況報告の時に家族の意見や要望があれば反映するように取り組んでいる。また、1階の玄関に意見箱を設けている為、意見があれば反映するように取り組んでいる。	家族に月1回担当職員が近況報告をして、相談しやすい関係を築けるように取り組んでいる。利用者の意見は生活の中で出た言葉や表情などからサービスに反映させている。意見箱を玄関に設置しており、感謝を伝えるメッセージが入ることがあり職員全員で共有し、より良いサービスを目指している。	

自己評価	外部評価	項 目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議や業務中など常に職員とのコミュニケーションを図り、意見交換を行うと共に職員の考えや意見を反映するように取り組んでいる。そうする事で、職員のやる気に繋がる様に心掛け、サービスの向上とやりがいを感じられる職場を目指している。	代表者と管理者、管理者と職員とは何でも要望が出せる関係を築いている。職員から出た意見は可能な限り運営に反映させている。インターバル制度を導入し無理なく働きやすい職場としても力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回の賞与、親睦会、残業をさせない。勤務間インターバル制度を導入している。勤務希望の制限を設けず楽しく無理なく働きやすい環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内勉強会・施設外研修の参加を行い、スキルアップに繋げている。また、業務中などで適正な対応や介護方法などの職員同士情報交換を行い実践に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他施設との交流を図り、合同での花火大会を行ったり、認知症に関する映画を鑑賞するなど地域の他の施設との連携を図っている。また情報交換を行う事でサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前に本人の情報を少しでも得る為にも、傾聴の姿勢でコミュニケーションを図り、性格や思いを知り、相手にも自分の事を少しでも知って頂く事で安心確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (1 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前にバックグラウンドの理解の為、事前訪問し本人と家族からの話を伺い可能な限り要望に応える事で、信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始前に、事前訪問し本人と家族からの話を傾聴し、必要とするサービスを確認し、アセスメントを十分に行い本人又は、家族の思いを可能な限り実現できるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が全てを行うのではなく、入居者の方にも無理が無い程度に、洗濯物たたみや、お盆拭きなどお手伝いをお願いし、本人の役割を持って頂き、協力し合える関係性を築いている。また、入居者の方には頼りにしている旨を伝え生きがいとやりがいに繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月末に家族に近況報告を行っており、その際に家族の意向などを聞くようにしており、職員だけではなく家族と共に入居者を支えている関係作りをしている。また、可能な限り面会に着手できるように声掛けを行い、家族と入居者との関係性を感じれるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設入居前からの馴染みの方など、制限を設ける事はせず、いつでも面会や電話連絡など本人と繋げれるようにしている。新型コロナウイルスやインフルエンザの流行状況によっては、面会時間や人数など制限をする場合がある。	面会や外出に制限を設けず対応し、外部との関係が途切れないように支援に努めている。利用開始前から関係がある近所の方とお好み焼きを食べ楽しんだ利用者もいる。日頃の利用者の声を家族に伝えることで職員と一緒に家族も利用者を支えているという意識づけに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者一人ひとりの性格や状況を把握し、その方にあったグループレクリエーションにお誘いし、入居者同士の交流を図る様に取り組んでいる。また、他の入居者との関りを好まない方もいますので、その方には職員が対応するようにし、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された入居者の家族様には、施設外で見かけた時には、積極的に声掛けを行い、関係性を断ち切らないように取り組んでいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成の際に、本人と家族の希望を取り入れたプランの作成や、その都度本人や家族の希望があれば可能な限り対応し、自立支援を念頭に置いたケアに取り組んでいる。	職員と利用者が一緒にゆっくりお茶をすることで会話の中で利用者の意向を把握している。テレビを見ながら「食べたい」と言われた物があれば料理レクで実践し食べたい気持ちを叶えている。利用開始前に自宅訪問し生活スタイルなどから一人ひとりが大切にしている思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接の際に、生活歴の情報を聞き、今までされていた生活の環境をなるべく変えず、うちの施設に変わられても安心して生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の1日の状況を記録し、体調の変化や変わった出来事の把握に努め職員が皆同じサービスの提供が行えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (1 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3 ヶ月に 1 回のモニタリングと家族・担当者・入居者・介護支援専門員が半年に 1 回のサービス担当者会議にて意見交換を行い、現状にあった介護計画書を作成し実施に努めている。	利用者の思いを利用者の言葉のままニーズとして介護計画書を作成している。家族に電話で意向を確認している。未達成のケア内容については達成に至らなかった原因を話し合い、次の目標に定めケアを実施するよう努めている。介護計画書を利用者にも説明し、同意を得ることがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々の様子を記載している。また、日々の生活で気づいた点や対応が変更した点など、ケア記録や連絡ノートにて記載し職員全員が状況の把握と統一した対応ができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々個々によって体調の変化や状況も変化する為、型にとらわれず本人の意思を尊重しつつ入居者を第一としたケアが取り組めるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域包括支援センターとの連携や、運営推進会議での意見交換にて地域情報の把握や、地域との連携に努めている。また、地域のパン屋さん（ブーランジェリーリシェット）よりパンの差し入れをして頂き、入居者が食べる喜びをサポートして頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所が連携している協力医の受診や往診の他に、本人又は家族の希望する病院や入居する以前から利用している病院等希望があれば、継続して家族の協力の下、受診を行っている。	利用者全員が事業所協力医を主治医としているが、利用開始前のかかりつけ医を継続する意向があれば継続受診が可能である。週 2 回の訪問看護や協力医訪問診療がある。それ以外の時でも体調に変化があったときは適切な医療が早く受けられるよう協力医に細かく情報を伝え連携している。	

自己評価	外部評価	項 目 (1 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護や日々の状態に応じ状況を報告し適切な治療が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院とは、小まめに情報交換や訪問する事で退院後も入居者が安心して適切な対応が行えるように努めている。また、知り得た情報を施設の担当医に情報提供する事で、医療面でもスムーズにサポートできるように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に当施設でケアできる範囲を説明し、理解を得ている。基本看取りは行っていないが、本人又は、家族の希望があれば協力医の指示の下、出来る限りのケアやサポートを行い終末期に向けた対応もさせて頂いている。	重度化した場合や終末期の対応は同意書説明や協力医の状態説明など話し合いの場を設け、家族の意向に合わせた方針を定め共有している。事業所と協力医がタブレット端末でケース記録から状態を把握し情報共有できるよう連携体制を整えて支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時の対応に関してインシデントレポートでの事故の集計を出し確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	自施設での消防訓練と災害訓練を取り入れ、職員一人ひとりが直ぐに行動にうつせるように実施している。また各職員がBCP（事業継続計画）の内容を確認し損害を最小限に抑え、事業の継続と復旧を図れるように取り組んでいる。	ハザードマップ上で災害圏域には該当しないが、地域住民の避難所として施設開放し対応できるよう受け入れ体制を整備している。消防訓練は消防署職員を呼び、自治会長や民生委員も参加し実際に利用者を避難させるところまで訓練し確認している。水消火器を使用した消火訓練も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目（ 1階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	フロア会議や業務中など常にプライバシー保護について説明を行い、入居者や家族の尊厳を重視し、プライバシー保護に努めている。	日頃から認知症の十か条を意識した言葉かけなどを実践している。人格やプライバシーを損ねる声かけや対応がある時には、職員同士が注意し合っている。必ず利用者の意思を1番に確認し考えたケアに努めている。業務優先ではなく利用者のペースに合わせた生活支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者からの希望や要望を傾聴し、希望があれば可能な限り提供できるように努めている。また、本人の意思を尊重し職員が決定権を持たず、必ず入居者の意思を確認した上で行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先ではなく、入居者を優先に考え本人のペースで1日を心身ともに穏やかに過ごせる様に努めている。また、本人の希望にも可能な限り応える事で、充実した日が過ごせる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に整容し身だしなみに気を付けている。入浴の際は、本人が過ごしやすく好みの服装にあった服を準備し提供している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しんで頂く為に、職員が手作りで準備し提供している。アレルギーの食事は別メニューで提供し安心して食事ができるように取り組んでいる。食後のお盆拭きのお手伝いをお願いし、一緒に食事の準備をしている気持ちを持って頂いている。	食材が届くと利用者が日付貼りを手伝っている。利用者一人ひとりの力を活かしながら、お盆拭きやテーブル拭きなどできることを利用者が役割を持って行っている。準備、食事、片付けまでを職員と一緒にしている。	

自己評価	外部評価	項 目 (1 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事量や水分摂取量を記録し、個々の状 況を把握する事で、安定した食事量や水 分量を提供できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアセットを準備し、食後自 己にて口腔ケアが行えるように努めてい る。また、自己にて口腔ケアが困難な入 居者に対して、介助を行い口腔内を清潔 に保てるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	個々にあったパットやリハビリパンツを 使用し、コストの削減に取り組んでい る。また、排泄パターンを把握しトイレ 介助を行う事で、極力トイレ内で排泄が 行えるように取り組んでいる。	利用開始後、約2週間から1か月間かけ て排泄パターンや習慣を把握している。 なるべくトイレでの排泄や、時間に合わ せたパットの大きさを検討しコスト削減 につながる取り組みに努めている。気持 ちよく過ごすことができるよう支援して いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方には、適度な運動や水分をしつ かり摂って頂き、また3・4日排便がみ られない入居者に対して、便秘薬の内服に より排便コントロールを行い、定期的に 排便が出るように取り組んでいる。入居 者の状況を担当医に報告し適切な処置や 指示を頂くように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しむように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入居者に固定の入浴日を設けているが、 体調不良や本人拒否の状況に応じ入浴日 の変更の調整を行っている。入浴をゆっ くり楽しんで頂く為に、本人のペースに 合わせ、入浴時にも常にコミュニケー ションを図り、くつろげるように取り組 んでいる。	気分によって柔軟に時間などを変更し対 応している。利用者が自ら「お風呂に入 りたい」と思えるように心が動く声かけ や支援方法を探り、全職員が共有し対応 している。入浴後の水分補給でお茶かポ カリスエットのどちらかを選択できるよ う楽しみにつながる支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居者によって入眠する時間が 違う為、休みたい時間に休まれ ている。不眠の方には、話を傾 聴し安心して頂けるように取 り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	各入居者のファイルに処方され ている薬の説明書を保管してお り、各職員が薬の名前、効能、 副作用等確認できるようにし ている。入居者が内服している 薬について把握できるように努 めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	入居者一人ひとり性格や生活 歴が異なる為、個々に合わせた サービスを提供している。活動 や他の入居者と交流が好きな 方は、グループレクリエーション に参加して頂いている。個人で 過ごす事を好まれる方は、職員 が付き添い、話を傾聴したり活 動を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	天気がいい日は、散歩に出かけ る事なるべく外出の機会を作る ようにしている。また、外出行 事を取り入れ普段行かない場所 にも行き楽しみを持てるように 取り組んでいる。家族の協力や 希望にて外出や外泊をされ日 常的な外出支援に取り組んで いる。	外出支援は利用者の楽しみとし て積極的に取り組んでいる。行 きたいところへ可能な限り行く ことができるよう支援している。 利用開始前から毎年千羽鶴を 折り、原爆ドームへ寄贈してい る習慣がある利用者の希望を 叶え、毎年一緒に広島市内まで 行き寄贈を続けている事例があ る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	基本、金銭の管理は御家族や施 設が管理しているが、本人が 管理したい入居者に対して御 家族の理解の上で本人が管理 している。入居者の購入希望 があればその都度御家族にご 連絡を行い購入をしている。		

自己評価	外部評価	項 目 (1 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の連絡や手紙のやり取りの希望があればその都度対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	普段は、フロア内はシンプルにしストレスを感じない空間にしている。季節に合わせた飾りつけを行い楽しんで頂き、大きな窓にて外を眺める事で山が見え四季を感じられる空間になっている。	大きな窓から景色を眺め四季が感じられるようにソファが設置してある。テラスに地域住民から提供された花プランターが生活を彩っている。室内で季節の手作り作品を華やかに飾り、広い空間で季節を感じながらゆっくり過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースにソファや食卓を設置し、入居者がゆっくりとくつろげる環境を整え、入居者と交流がとれやすいように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用していた家具や生活用品を持って来て頂く事で、使用し易い環境を整えている。また入居者が住みやすいように状況に応じ環境整備を行っている。	事故検討を活かしてリスク評価を参考にしたり、利用者や家族の意向を聞いて環境を作っている。利用開始前に自宅訪問し生活環境を確認し、使い慣れている家具やテレビを持ち込みなるべく自宅に近い環境に配置し居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は、バリアフリーに設計されている。また、手すりを廊下やトイレなどに取り付けている事で、障害を持った方でも自分の能力を活かし、行える範囲が広がり自立した生活が行えるようにしている。		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送りに後に、山ぼうしの理念と認知症ケアの十か条の把握と、実践に繋げる為、職員皆で復唱し実施できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域での清掃活動に参加させて頂き、地域の一員として活動を行っている。散歩に行かれる際には、ご近所さんとの挨拶を行い地域との交流を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターからの依頼を受け、小学校・中学校・集会所・銀行など認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に対する偏見を持たず理解をして頂けるように活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヵ月に1回運営推進会議を開催し、施設の報告を行い参加者から、意見を頂き改善と向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	生活保護の入居者もいますので、生活課と密に連携を取り、情報交換とサービスの向上に取り組んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束拘束適正化検討委員会で2ヵ月に1回会議と職員には事例をもとに考えて頂き報告書を提出して頂く事で、個人の見解を知り、身体拘束をしてはいけない！意味を理解をして頂く為に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会で2ヵ月に1回会議と職員には事例をもとに考えて頂き報告書を提出して頂く事で、個人の見解を知り虐待防止に努めている。また、フロア会議でも虐待防止について事例を伝え個人の意見を聞き虐待防止について職員間で共有できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を行い、成年後見人制度について、後見人の役割と重要性を理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時・解約時・変更時に家族と話し、家族からの疑問に関して対応する事としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や月に1回の近況報告の時に家族の意見や要望あれば反映するように取り組んでいる。また、1階の玄関に意見箱を設けている為、意見があれば反映するように取り組んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議や業務中など常に職員とのコミュニケーションを図り、意見交換を行うと共に職員の考えや意見を反映させるように取り組んでいる。そうすることで、職員のやる気に繋がる様に		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回の賞与、親睦会、残業をさせない。勤務間インターバル制度を導入している。勤務希望の制限を設けず楽しく無理なく働きやすい環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内勉強会・施設外研修の参加を行い、スキルアップに繋げている。また、業務中などで適正な対応や介護方法など職員同士情報交換を行い実践に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他施設との交流を図り、合同での花火大会を行ったり、認知症に関する映画を鑑賞するなど地域の他の施設との連携を図っている。また情報交換を行う事でサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前に本人の情報を少しでも得る為にも、傾聴の姿勢でコミュニケーションを図り、性格や思いを知り、相手にも自分の事を少しでも知って頂く事で安心確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前にバックグラウンドの理解の為、事前訪問し本人と家族からの話を伺い可能な限り要望に応える事で、信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始前に、事前訪問し本人と家族からの話を傾聴し、必要とするサービスを確認し、アセスメントを十分に行い本人又は、家族の思いを可能な限り実現できるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が全てを行うのではなく、入居者の方にも無理が無い程度に、洗濯物たたみや、お盆拭きなどお手伝いをお願いし、本人の役割を持って頂き、協力し合える関係性を築いている。また、入居者の方には頼りにしている旨を伝え生きがいとやりがいに繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月末に家族に近況報告を行っており、その際に家族の意向などを聞くようにしており、職員だけではなく家族と共に入居者を支えている関係作りをしている。また、可能な限り面会に着手できるように声掛けを行い、家族と入居者との関係性を感じれるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設入居前からの馴染みの方など、制限を設ける事はせず、いつでも面会や電話連絡など本人と繋げれるようにしている。新型コロナウイルスやインフルエンザの流行状況によっては、面会時間や人数など制限をする場合があります。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者1人1人の性格や状況を把握し、その方にあったグループレクリエーションにお誘いし、入居者同士の交流を図る様に取り組んでいる。また、他の入居者との関りを好まない方もいますので、その方には職員が対応するうようにし、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された入居者の家族様には、施設外で見かけた時には、積極的に声掛けを行い、関係性を断ち切らないおうに取り組んでいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成の際に、本人と家族の希望を取入れたプランの作成や、その都度本人や家族の希望があれば可能な限り対応し、自立支援を念頭に置いたケアに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接の際に、生活歴の情報を聞き、今までされていた生活の環境をなるべく変えず、うちの施設に変わられても安心して生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の1日の状況を記録し、体調の変化や変わった出来事の把握に努め職員が皆同じサービスの提供が行えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3ヵ月に1回のモニタリングと家族・担当者・入居者・介護支援専門員が半年に1回のサービス担当者会議にて意見交換を行い、現状にあった介護計画書を作成し実施に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々の様子を記載している。また、日々の生活で気づいた点や対応が変更した点などケア記録や連絡ノートにて記載し職員全員が状況の把握と統一した対応ができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々個々によって体調の変化や状況も変化する為、型にとらわれず本人の意思を尊重しつつ入居者を第一としたケアが取り組めるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域包括支援センターとの連携や、運営推進会議での意見交換にて地域情報の把握や、地域との連携に努めている。また、地域のパン屋さん（ブルーランジェリーリッシュ）がパンの差し入れをして頂き、入居者が食べる喜びをサポートして頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の連携している協力医の受診や往診の他に、本人又は家族の希望する病院や入居する以前から利用している病院等希望があれば、継続して家族の協力の下、受診を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護や日々の状態に応じ状況を報告し適切な治療が受けれるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院とは、小まめに情報交換や訪問する事で退院後も入居者が安心して適切な対応が行えるように努めている。また、知り得た情報を施設の担当医に情報提供する事で、医療面でもスムーズにサポートできるように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に当施設でケアできる範囲を説明し、理解を得ている。基本看取りは行っていないが、本人又は、家族の希望があれば協力医の指示の下、出来る限りのケアやサポートを行い終末期に向けた対応もさせて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時の対応に関してインシデントレポートでの事故の集計を出し確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	自施設での消防訓練と災害訓練を取入れ、職員1人1人が直ぐに行動にうつせるように実施している。また各職員がBCPの内容を確認し損害を最小限に抑え、事業の継続と復旧を図れるように取り組んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	フロア会議や業務中など常にプライバシー保護について説明を行い、入居者や家族の尊厳を重視し、プライバシー保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者からの希望や要望を傾聴し、希望があれば可能な限り提供できるように努めている。また、本人の意思を尊重し職員が決定権を持たず、必ず入居者の意思を確認した上で行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先ではなく、入居者を優先に考え本人のペースで1日を心身ともに穏やかに過ごせる様に努めている。また、本人の希望にも可能な限り応える事で、充実した日が過ごせる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に整容し身だしなみに気を付けている。入浴の際は、本人が過ごしやすく好みの服装にあった服を準備し提供している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しんで頂く為に、職員が手作りで準備し提供している。アレルギーの食材は別メニューで提供し安心して食事ができるように取り組んでいる。食後のお盆拭きのお手伝いをお願いし、一緒に食事の準備をしている気持ちを持って頂いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事量や水分摂取量を記録し、個々の状 況を把握する事で、安定した食事量や水 分量を提供できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアセットを準備し、食後自 己にて口腔ケアが行えるように努めてい る。また、自己にて口腔ケアが困難な入 居者に対して、介助を行い口腔内を清潔 に保てるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	個々にあったパットやリハビリパンツを 使用し、コストの削減に取り組んでい る。また、排泄パターンを把握しトイレ介 助を行う事で、極力トイレ内で排泄が行 えるように取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方には、適度な運動や水分をしっ かり摂って頂き、また3・4日排便がみ られない入居者に対して、便秘薬の内服に より排便コントロールを行い、定期的に 排便が出るように取り組んでいる。入居 者の状況を担当医に報告し適切な処置や 指示を頂くように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入居者に固定の入浴日を設けているが、 体調不良や本人拒否の状況に応じ入浴日 の変更の調整を行える。入浴をゆっくり 楽しんで頂く為に、本人のペースに合わ せ、入浴時にも常にコミュニケーション を図り、くつろげるように取り組んでい る。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居者によって入眠する時間が 違う為、休みたい時間に休まれ ている。不眠の方には、話を傾 聴し安心して頂けるように取 組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	各入居者のファイルに処方され ている薬の説明書を保管してお り、各職員が薬の名前、効能、 副作用等確認できるようにし ている。入居者が内服している 薬について把握できるように努 めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	入居者1人1人性格や生活歴が 異なる為、個々に合わせたサー ビスを提供している。活動や他 の入居者と交流が好きな方は、 グループレクリエーションに参 加して頂いている。個人で過 ごす事を好まれる方は、職員 が付き添い、話を傾聴したり活 動を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	天気がいい日は、散歩に出かけ る事なるべく外出の機会を作る ようにしている。また、外出行 事を取入れ普段行かない場所 にも行き楽しみを持てるよう に取り組んでいる。家族の協力 や希望にて外出や外泊をされ 日常的な外出支援に取り組ん でいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	基本、金銭の管理は御家族や施 設が管理しているが、本人が 管理したい入居者に対して御 家族の理解の上で本人が管理 している。入居者の購入希望 があればその都度御家族にご 連絡を行い購入をしている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の連絡や手紙のやり取りの希望があればその都度対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	普段は、フロア内はシンプルにしストレスを感じない空間にしている。季節に合わせた飾りつけを行い楽しんで頂き、大きな窓にて外を眺める事で山が見え四季を感じられる空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースにソファや食卓を設置し、入居者がゆっくりとくつろげる環境を整え、入居者と交流がとれやすいように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用していた家具や生活用品を持って来て頂く事で、使用し易い環境を整えている。また入居者が住みやすいように状況に応じ環境整備を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は、バリアフリーに設計されている。また、手すりを廊下やトイレなどに取り付けている事で、障害を持った方でも自分の能力を生かし行える範囲が広がり自立した生活が行えるようにしている。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム山ぼうし

作成日 令和6年5月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	自然災害(水害)について避難訓練は実施しているが、避難後の説明が不足している。	スムーズな避難訓練はもちろんの事、避難後にどのように行動するのか各職員が (BCP) を把握し業務継続計画書に沿った行動ができるように努める。	年に2回自然災害の訓練を実施、(BCP)を活用し説明を行う。又年に2回BCPの確認を各職員行い、報告書の提出を行って行く。	訓練とBCPの確認・報告書提出6月12月の年2回8カ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。